

ふくしまイレブンとは、福島県の多彩な農林水産物を代表する生産量が全国上位の11品目です。毎月おいしいアスリートを紹介します。

# ふくしまイレブン



バックナンバーが読める！  
HPはこちら!!!

## ふくしまイレブンエッセイ

検索



# 鶏鶏 (とりどり) 談話

ふくしまイレブン 背番号11番 地鶏兄弟

「この企画を通すことはできません。」

会議室に、透明感のある確信に満ちた声が響き渡った。会津地鶏の、その容姿にも劣らぬ声の美しさに、生徒会の女子たちは、ほう、とため息をついた。

「生徒会として、この企画は認められない。」

会津地鶏は、もう一度言った。みんなが、会津地鶏の向かい側に座った川俣シャモの方を一言にちらりと見る。

「また始まった。」

川俣シャモは頭をくしゃくしゃとかきむしり、苛立ちながら言った。今年の卒業式の実行委員長を務める川俣シャモは、喧嘩っ早いことでも有名だ。

「なんでだめなんだよ、卒業式の実行委員長は俺だぜ？」

「生徒会長は私です。」

「すかさず、会津地鶏が答える。」

「生徒会長はそんな偉いのかよ。」

「学校の規律と伝統を守るのが、私の役目です。」

今年の卒業式の企画について実行委員会が説明するといつて招集された今日の生徒会役員会は、予定を大幅に過ぎて1時間が過ぎようとしていた。例年の卒業証書授与を行わず、卒業生一人ひとりが壇上で決意を述べる、という企画内容について、生徒会長である会津地鶏のストップがかかったのである。

「よう、会津地鶏。知ってるか。」

川俣シャモが机に乗り出して、声を低く言った。

「伝統ってのはな、つくるもんだ。最初から伝統として存在した伝統なんてはないんだよ。」

会津地鶏と川俣シャモが、机をはさんで睨み合っているのを、

全員が息をのんで見つめていた。タイプの違う二人は、サッカーの芝の上だけでなく、様々な場面で意見が食い違うことが常である。どちらも譲らず、それでいて、結果として二人が

協力すればものすごい力が発揮されることも、周知の事実であった。

「卒業証書授与を取りやめることは認めません。校長から、すべての生徒が証書を直接受け取ってください。」

会津地鶏の端整な顔立ちと、感情的にならない冷静な口調が、川俣シャモの気をさらに逆なでした。川俣シャモは勢よく立ち上がって、叫んだ。

「お前、この三年間で思うところないのかよ！黙って紙切れを受け取って、それが俺たちの卒業式かよ！みんなに伝えたいこと、ないのかよ！」

少し涙ぐんだ川俣シャモの向かいで、会津地鶏はゆっくりと立ち上がると、静かに言った。

「あります。」

会議室が、少しざわついた。

「私にも、仲間や先生に伝えたい気持ちがあります。」

会津地鶏はチョークを手に持つと、黒板に何かを書き始めた。卒業式の会場である体育館の見取り図だ。

「ここ、壇上で卒業証書授与をやってください。壇上の両脇の壁にスクリーンを張ります。一人ひとりが書いたメッセージを、授与のタイミングで映す。どうですか。」

川俣シャモは口をぽかんと開けたまま、しばらく黒板をぼんやりと見つめていた。みんなも、しんとそれを眺めていた。

「伝統は守り、そしてつくるものです。違いますか。」

無表情だった会津地鶏が、少し微笑んだ。

突然、川俣シャモが机の上に飛び乗ったかと思うと、会津地鶏に向かって飛びついた。一瞬、喧嘩が始まるのかとみんなは思ったが、川俣シャモは会津地鶏に抱きついて、笑顔でこう叫んだ。

「会津地鶏よ！最高の卒業式になりそうだぜ！」

再び無表情に戻った会津地鶏は、首からむ川俣シャモの腕をはずそうとしながらも、それを振り切れないままみんなに言った。

「それでは、役員会を終わります。お疲れ様でした。」

会津地鶏は、会津地方で古くから飼われていた固有種で、その美しい尾羽は会津彼岸獅子の獅子頭の飾りなどにも使われてきました。良質な油・コク・旨みにすぐれた肉は、様々な料理に向いています。

川俣（かわまた）シャモは、シルク生産が有名な川俣町で、闘鶏に用いられる軍鶏をもとに誕生しました。高タンパク・低カロリー・低脂肪の肉は、噛めば噛むほど鶏本来の旨みが口いっぱいに広がります。

福島県の二大地鶏、どちらも甲乙つけがたいおいしさです。



地鶏